

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年 月 日

協議会名:岩国市地域公共交通活性化再生法協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
岩国市	玖西循環線 (玖珂駅～玖珂駅)	<p>JR岩徳線への乗り継ぎに適したダイヤ設定を行うことが利用者ニーズに即した運行となることから、引続きJR岩徳線のダイヤに合わせた運行ダイヤとなるよう調整を行った。</p> <p>また、利用者への周知については、時刻表の全戸配布や主要施設等に設置するとともにホームページ等への掲載も行っている。</p> <p>なお、岩国市地域公共交通活性化再生法協議会において作成している岩国市総合時刻表および公共交通マップも活用し周知を図った。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施された。	<p>(目標達成状況)</p> <p>JR岩徳線のダイヤ改正に合わせて運行時刻の調整を行っており、また利用者への周知については例年の周知方法を継続して実施した。</p> <p>本年度設定した定量的な目標と実績に関しては、</p> <p>①経常収支率は目標4.3%以上に対して4.26%</p> <p>②公的負担額は目標13,056千円以下に対して13,073千円</p> <p>③市民一人当たりのバス年間利用回数は目標0.26回に対して0.27回</p> <p>④年間利用者数は目標5,210人に対して5,480人となり、</p> <p>③と④の二項目について目標達成となった。</p> <p>(効果達成状況)</p> <p>地域全体においては、隣接市や市中心部への移動手段の確保、高齢者等の外出促進、地域住民の活動機会の確保につながっている。</p>	B <p>当該路線を維持することで、隣接市や市中心部への移動手段の確保、高齢者の外出促進、地域住民の活動機会の確保など地域活性化に繋がっているものと考えられる。</p> <p>このため、今後も引き続きJR岩徳線・広域路線バスへの乗り継ぎに適したダイヤの設定及びSNS等を活用した啓蒙活動等の利用促進を行う。</p> <p>また、利用状況に即した内容での運行便数に変更することで1運行あたりの利用者数の向上を図ることにより、持続可能な運行を目指す。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
第一交通(株)	<p>叶木線 (六呂師口～岩国駅)</p>	<p>岩国市地域公共交通活性化再生法協議会において作成している岩国市総合時刻表及び公共交通マップを活用し周知を図った。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施された。</p>	<p>C (目標達成状況) JR岩国駅への接続を行うことにより利便性の向上に努めた。 また、利用者への周知については例年の周知方法を継続して実施した。 本年度設定した定量的な目標と実績に関しては、 ①経常収支率は目標2.8%以上に対して1.8%、 ②公的負担額は目標14,075千円以下に対して13,223千円、 ③市民一人当たりのバス年間利用回数は目標0.85回に対して0.74回、 ④年間利用者数は目標2,664人に対して2,312人となり、 いずれの項目も目標達成とはならなかった。</p>	<p>今後も利用者のニーズに適したダイヤ及び路線の見直しを検討するとともに啓蒙活動等の利用促進を行う。</p>
	<p>二鹿線 (北河内駅～岩国駅)</p>			<p>C</p>	
	<p>持ヶ峠線 (小川津～岩国駅)</p>			<p>C (効果達成状況) また、各路線においては、地域の公共交通空白地の解消と、高齢者等の移動手段の確保につながった。</p>	

別添1-2

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年 月 日

協議会名:	岩国市地域公共交通活性化再生法協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>岩国市では、広域移動となる拠点間の移動は鉄道及び広域路線バスが、各拠点内の移動は地域内路線バスが担っているが、公共交通の利用者数の減少や慢性的な運転手不足等から、公共交通を取り巻く状況は大変厳しい状況にあり、また、高度経済成長期に開発された住宅団地における住民の高齢化や、公共施設の移転や再編等に伴う移動ニーズの変化等、対応が必要な課題が多く発生している状況にある。</p> <p>このような状況の中、持続可能な公共交通を確保・維持する取組として、地域住民の通院・買物等、日常生活に必要な地域内交通移動を維持することにより地域を活性化させ、また、広域移動となる鉄道等と地域内移動となる地域内路線バスとの接続を図ることにより、利便性を維持しながら、持続可能で効果的、効率的な公共交通体系とするための確保維持改善事業計画、生活交通ネットワークを構築しているところである。</p>

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 岩国市地域公共交通活性化再生法協議会 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



岩国市の概要

- ・平成18年3月に1市6町1村が合併
- ・人口 129,125人(令和2年国勢調査)
- ・面積 873.72km²

協議会の構成員

岩国市、いわくにバス(株)、防長交通(株)、石見交通(株)、第一交通(株)、錦川鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、山口県タクシー協会、岩国柱島海運(株)、中国地方整備局、山口県、住民代表、山口運輸支局、岩国警察署、中国運輸局、学識経験者

概要

岩国市では、広域移動となる拠点間の移動は鉄道及び広域路線バスが、各拠点内の移動は地域内路線バスが担っているが、公共交通の利用者数の減少や慢性的な運転手不足等から、公共交通を取り巻く状況は大変厳しい状況にある。また、高度経済成長期に開発された住宅団地における住民の高齢化や、公共施設の移転や再編等に伴う移動ニーズの変化等、対応が必要な課題が多く発生している状況にある。

このような状況の中、持続可能な公共交通を確保・維持する取組として、地域住民の通院・買物等、日常生活に必要な地域内交通移動を維持することにより地域を活性化させ、また、広域移動となる鉄道等と地域内移動となる地域内路線バスとの接続を図ることにより、利便性を維持しながら、持続可能で効果的、効率的な公共交通体系とするための確保維持改善事業計画を構築している。

その他の施策として、利用者が少なく集落が散在する山間地域をカバーするため、事前予約型・区域運行の乗合バス(デマンドバス)を地域内幹線系統へ接続、スクールバスへの一般利用者の混乗化、乗合タクシーの実証運行等、地域の状況や要望等を勘案しながら、順次利便性の向上に向けた取組を実施している。

協議会の主な取り組み

- ・利用者ニーズに合わせた生活交通バス等の再編
- ・乗合タクシーの実証運行
- ・目的限定輸送サービスの統合
- ・錦川清流線の維持・活性化のための事業
- ・中山間空白地域におけるデマンドバスの導入
- ・岩国市公共交通総合時刻表及びマップの作成と配布
- ・HP等による時刻表等の情報提供
- ・公共交通教室の実施による利用促進事業
- ・中高校生へのモビリティ・マネジメント事業
- ・外国人を対象としたバスの乗り方パンフレットの作成と配布
- ・その他交通計画に位置づけられた事業の実施

協議会における検討

- | 協議会の開催状況 | 4回開催 |
|------------------|-------------------------------|
| ・第1回(R6. 5. 24) | R7確保維持改善計画認定申請について |
| ・第2回(R6. 6. 26) | 公共交通計画の改正について |
| ・第3回(R7. 5. 20) | 岩国市地域公共交通計画の基準値及び目標値等の見直しについて |
| ・第4回(R7. 12. 26) | R7確保維持改善計画に係る事業評価について |

定量的な目標・効果

(目標)

<玖西地域>

・JR岩徳線、広域路線バスへの乗り継ぎに適したダイヤの設定。

①経常収支率:4.3%以上 ②公的負担額:13,056千円以下 ③市民一人当たりのバス年間利用回数:0.26回 ④年間利用者数:5,210人

<叶木・二鹿・持ヶ峠線>

①経常収支率:2.8%以上 ②公的負担額:14,075千円以下 ③市民一人当たりのバス年間利用回数:0.85回 ④年間利用者数:2,664人

(効果)

当該路線を維持することで、隣接市や市中心部への移動手段の確保、高齢者の外出促進、地域住民の活動機会の増加などで地域活性化に繋がる。

昨年度の自己評価に対するフォローアップ

JR岩国駅への接続を行い、利用者への公共交通マップ&時刻表の配布を行う等の利用促進を行った。また、災害時や悪天候時には運行事業者等と調整を行いながら、安全かつ安定した運行を努めることで、持続可能な運行を行った。

実施した利用促進策

JR岩徳線のダイヤ改正があればそれに合わせダイヤの調整を行うことで利用促進を図るとともに、協議会で作成配布している総合時刻表と公共交通マップを10月と4月に発行し、利用者の利便性の向上を図った。

本マップについては、70歳を迎える高齢者に敬老優待乗車証を送付する際に同時配布を行ったり、高校生を対象としたモビリティ・マネジメント事業の一環としても配布を行い、利用促進を図っている。

また玖珂地域においては、ダイヤ改正時において地域に特化した時刻表と路線図を全戸配布している。

昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

地域のニーズに対応した運行内容の見直しや、乗り継ぎの利便性を考慮したダイヤ改正を行うとともに、総合時刻表及び公共交通マップにおいては、より利用しやすい時刻表やマップとなるよう見直す等効果の実現に向けた取組を継続的に実施した。

地域住民の意見の反映

事業実施の適切性

<玖西地域>

事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施された。

<叶木・二鹿・持ヶ峠線>

事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施された。

目標・効果達成状況

<玖西地域>

(目標)①経常収支率:4.3%以上 ②公的負担額:13,056千円以下 ③市民一人当たりのバス年間利用回数:0.26回 ④年間利用者数:5,210人
(実績)①経常収支率:4.26% ②公的負担額:13,073千円 ③市民一人当たりのバス年間利用回数:0.27回 ④年間利用者数:5,480人
(効果)隣接市や市中心部への移動手段の確保、高齢者等の外出促進、地域住民の活動機会の確保などに繋がった。

<叶木・二鹿・持ヶ峠線>

(目標)①経常収支率:2.8%以上 ②公的負担額:14,075千円以下 ③市民一人当たりのバス年間利用回数:0.85回 ④年間利用者数:2,664人
(実績)①経常収支率:1.8% ②公的負担額:13,223千円 ③市民一人当たりのバス年間利用回数:0.74回 ④年間利用者数:2,312人
(効果)地域の公共交通空白地の解消と、高齢者等の移動手段の確保につながった。

事業の今後の改善点

<玖西地域>

今後も引き続きJR岩徳線・広域路線バスへの乗り継ぎに適したダイヤの設定及びSNS等を活用し啓蒙活動等の利用促進を行う。また、利用状況に即した内容での運行便数に変更することで1運行あたりの利用者数の向上を図ることにより、持続可能な運行を目指す。

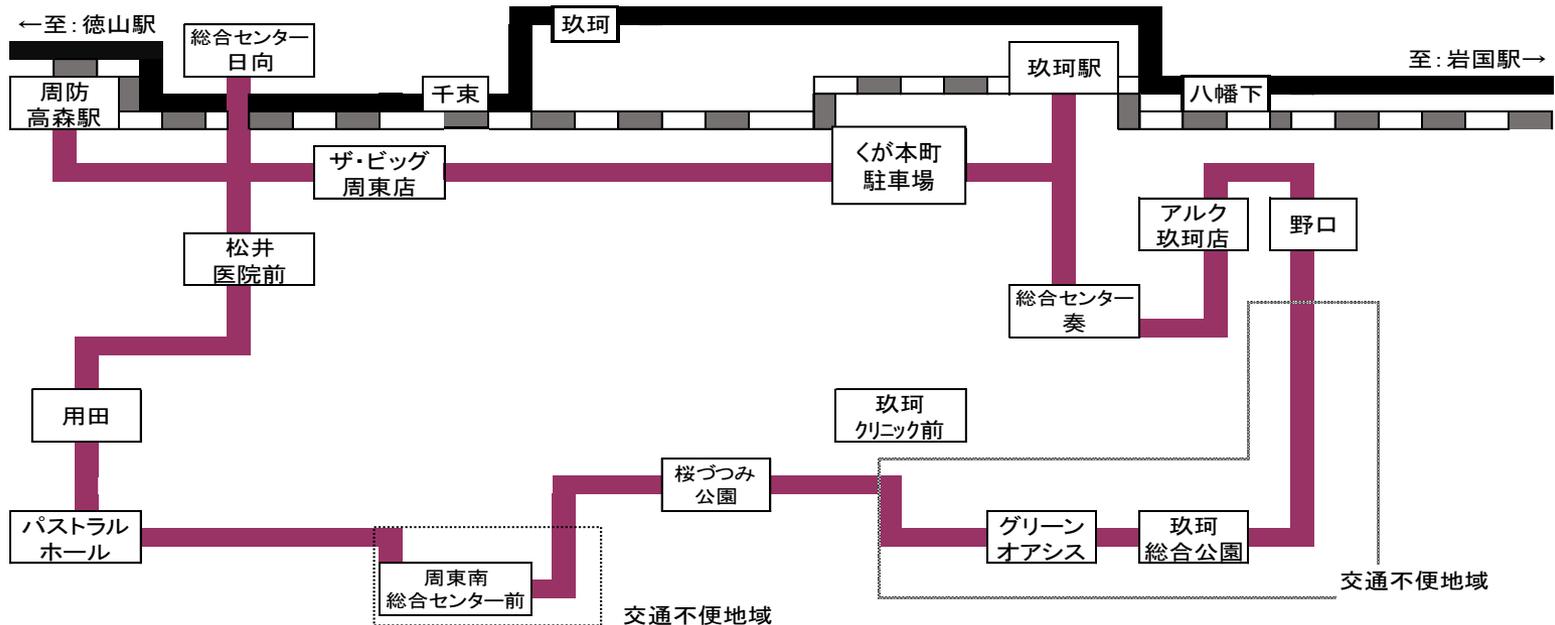
<叶木・二鹿・持ヶ峠線>

今後も引き続きJR岩国駅への接続を行い、利用者への啓蒙活動等の利用促進を行う。また、近年利用の無い一部の路線廃止を検討するとともに、運行ダイヤについては、利用者からの要望を聞き、運行事業者等と調整を行いながら、利便性の向上に努めることで、持続可能な運行を目指す。

運行系統図

系統名 玖西循環線
 運行形態 市町村運営有償運送 ー 乗合バス型(定期)
 運行日・便数 玖西循環線 8便 ー (毎日(日祝及び年末年始12/31~1/2運休))
 運賃 玖西循環線(200円均一)

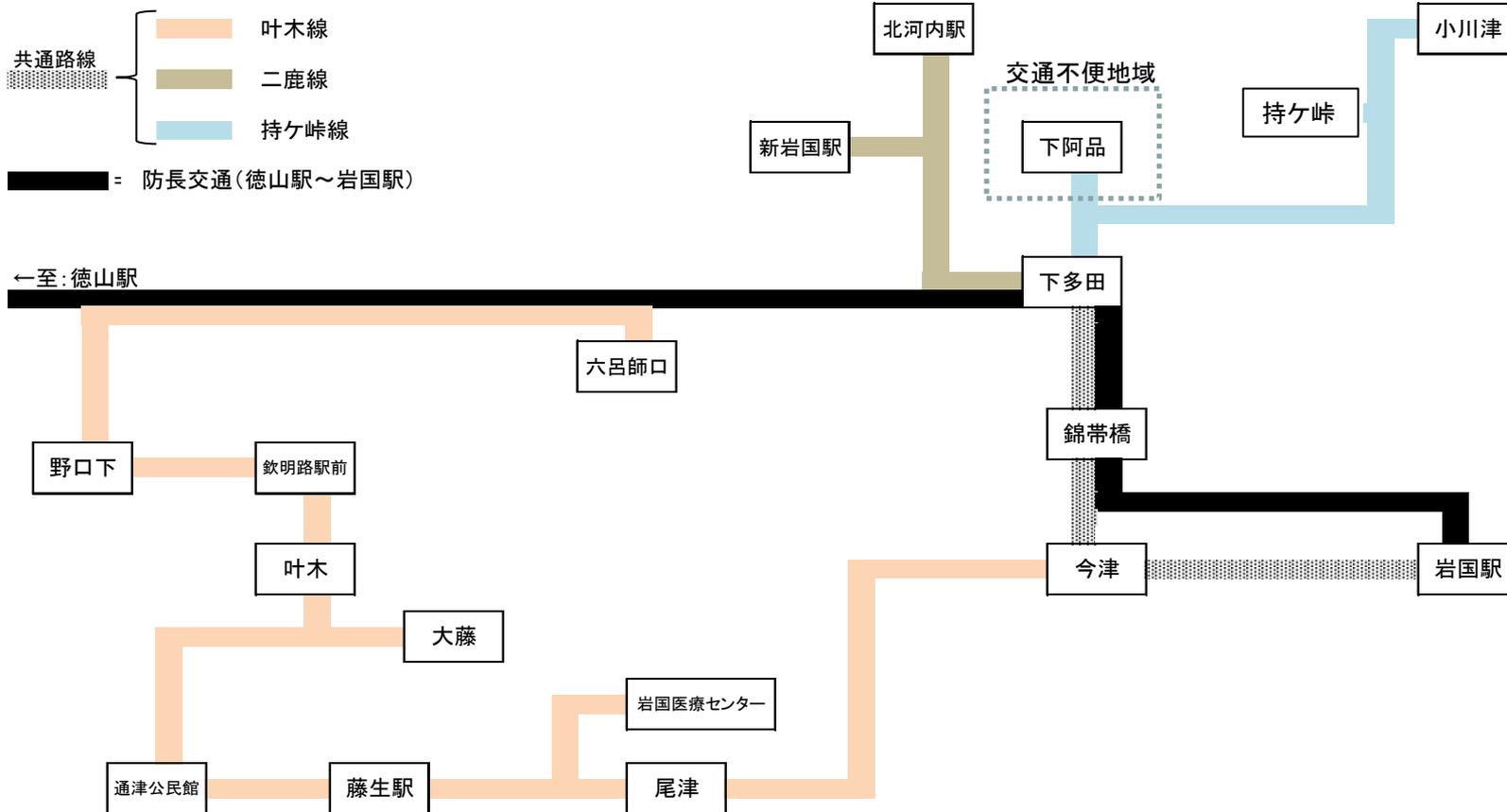
- 玖西循環線
- 岩徳線(JR西日本)
- (防長交通: 徳山駅~岩国駅)



運行系統図

系統名	叶木・二鹿・持ヶ峠線		
運行形態	4条路線 - 乗合バス型(定期)		
運行日・便数	叶木線 2便 - 月木(祝日運休)、二鹿線 2便 - 火金(祝日運休)、持ヶ峠線 2便 - 水金(祝日運休)		
運賃	対キロ制 なお、12/31～1/2(年末年始)は叶木線・二鹿線・持ヶ峠線運休。		

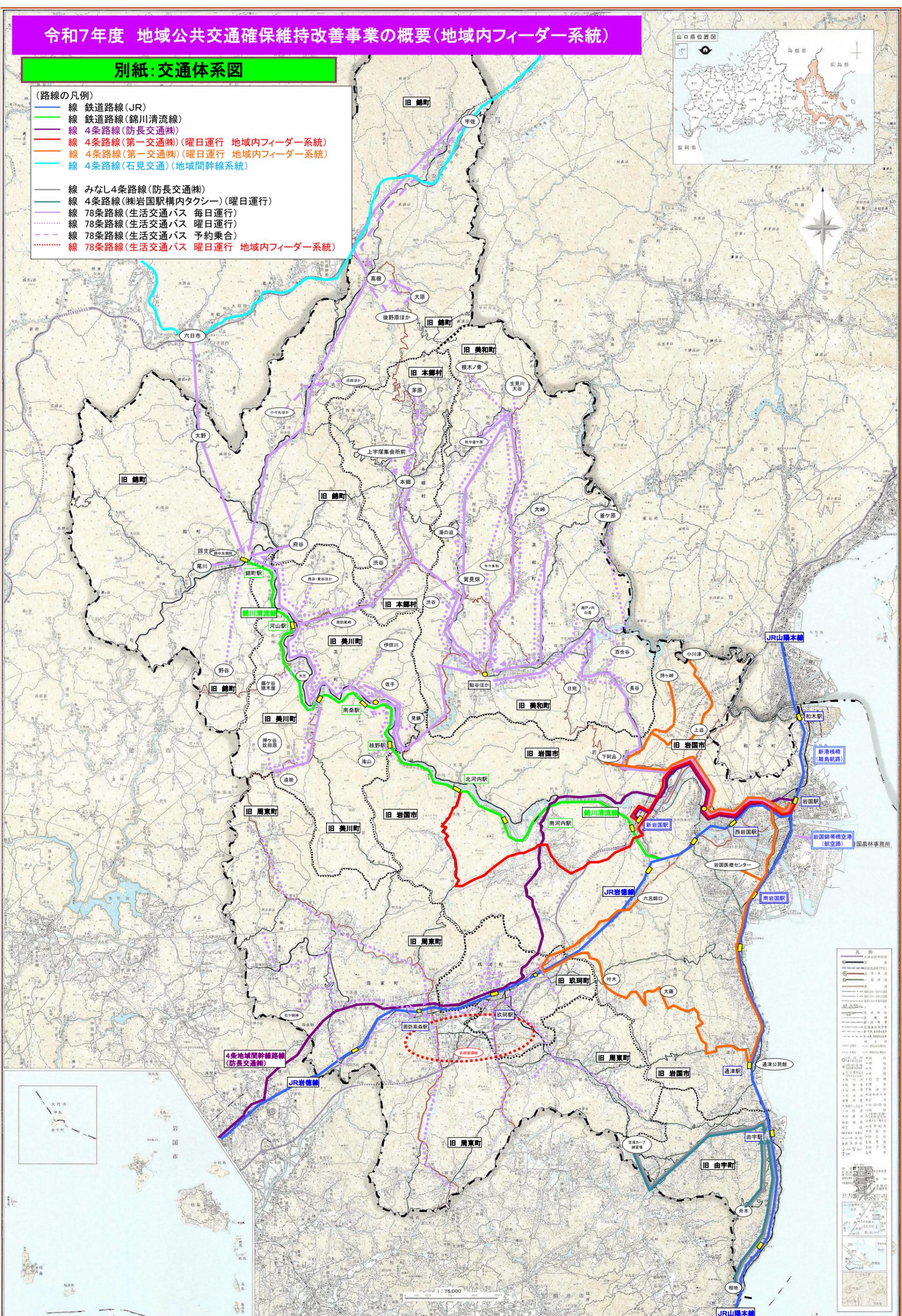
【叶木・二鹿・持ヶ峠線】



令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業の概要(地域内フィーダー系統)

別紙: 交通体系図

- (路線の凡例)
- 線 鉄道路線 (JR)
 - 線 鉄道路線 (錦川清流線)
 - 線 4条路線 (防長交通株)
 - 線 4条路線 (第一交通株) (曜日運行 地域内フィーダー系統)
 - 線 4条路線 (第一交通株) (曜日運行 地域内フィーダー系統)
 - 線 4条路線 (石見交通) (地域間幹線系統)
 - 線 みなし4条路線 (防長交通株)
 - 線 4条路線 (株岩国駅構内タクシー) (曜日運行)
 - 線 78条路線 (生活交通バス 毎日運行)
 - 線 78条路線 (生活交通バス 曜日運行)
 - 線 78条路線 (生活交通バス 予約乗合)
 - 線 78条路線 (生活交通バス 曜日運行 地域内フィーダー系統)



- 凡例
- 生活交通バス (平日運行)
 - 生活交通バス (曜日運行)
 - 生活交通バス (予約乗合)
 - 生活交通バス (曜日運行 地域内フィーダー系統)
 - 防長交通株
 - 第一交通株
 - 石見交通
 - JR
 - 錦川清流線
 - 防長交通株 (みなし)
 - 株岩国駅構内タクシー
 - 生活交通バス (毎日運行)
 - 生活交通バス (曜日運行)
 - 生活交通バス (予約乗合)
 - 生活交通バス (曜日運行 地域内フィーダー系統)